

GビズIDの民間サービスでの活用に係る 実証実験結果

2026/3/31

- サービス名称 :

- my eシール

- サービス内容 :

- G BizID認証基盤から取得した所属情報を電子証明書に記載し、“組織情報用証明書”として活用
- G BizID認証基盤の認証プロセスを介すことで、所属情報の偽造・改ざんを防止

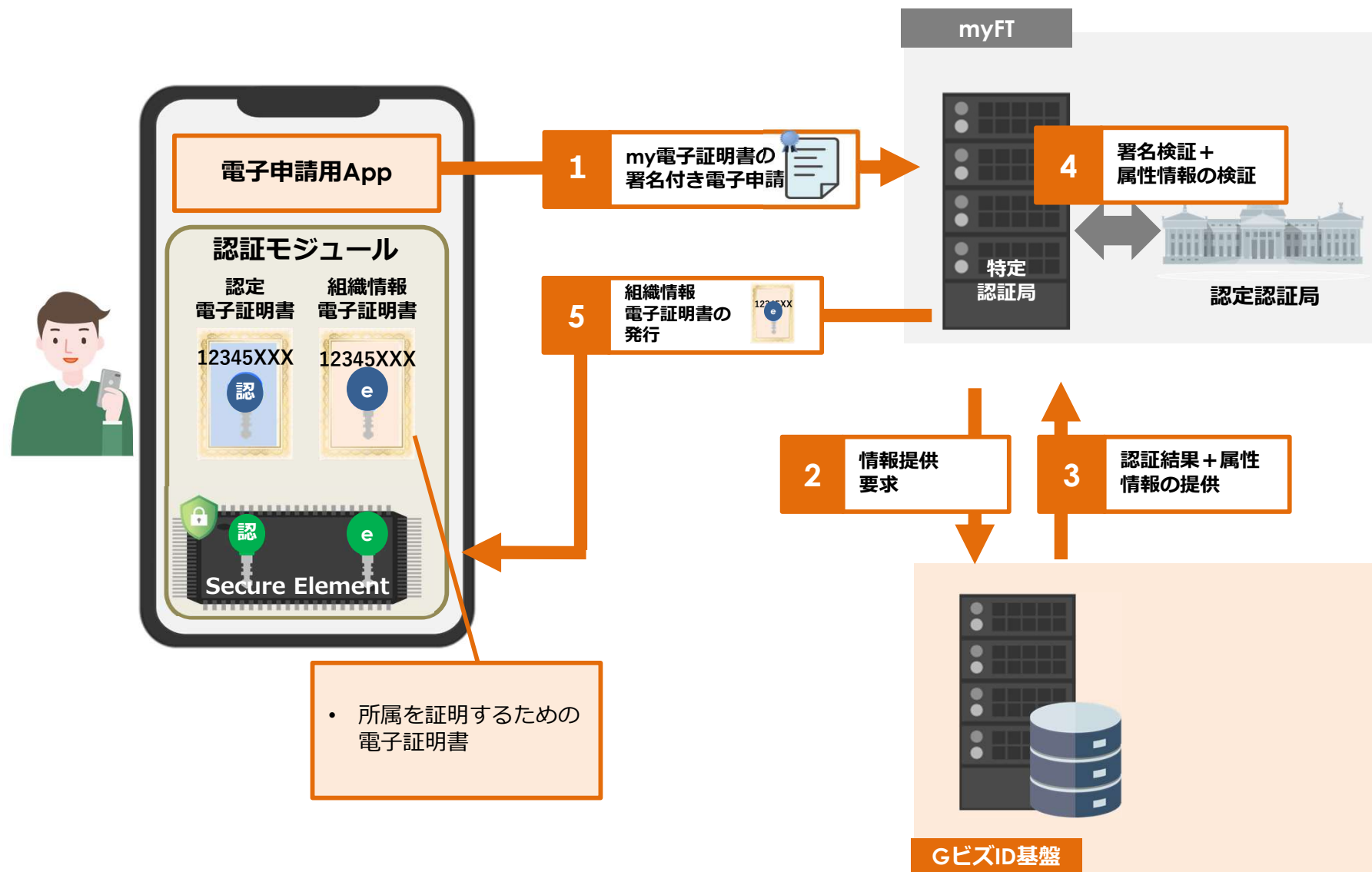
- 新規/既存の別 :

- 新規事業

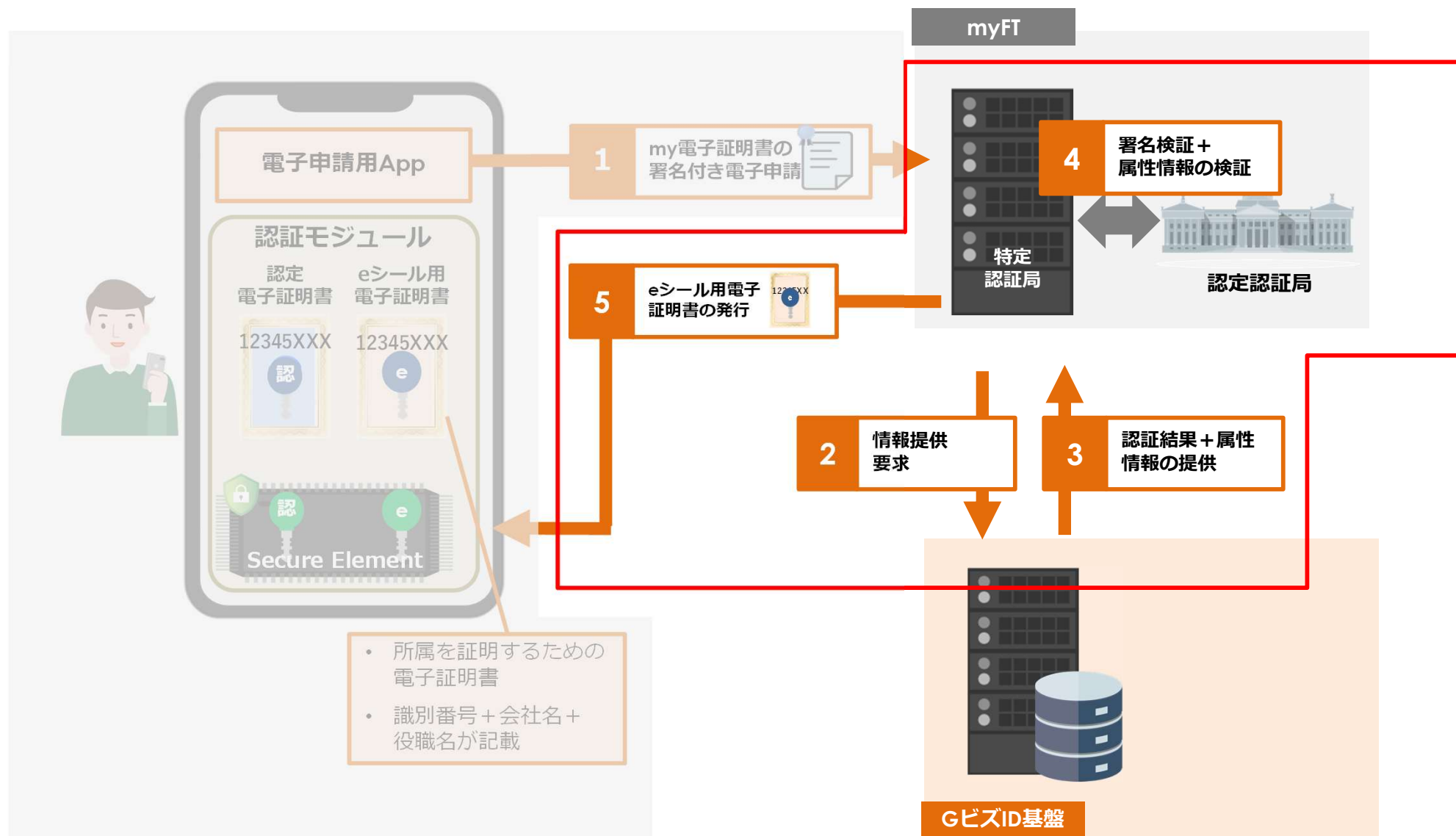
2. 進捗状況に関する実績工程表

No.	項目	令和7年					令和8年		
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	本実証実験の採択	8/27							
2	組織情報証明書 発行システム	基本設計							
3		開発							
4		運用・アップデート対応							
5		基本設計							
6	組織情報証明書 検証システム	開発							
7		運用・アップデート対応							

- GビズID認証基盤から取得した所属情報を電子証明書に記載し、“組織情報用証明書”として活用
- GビズID認証基盤の認証プロセスを介することで、所属情報の偽造・改ざんを防止



■ 下記赤枠が今回の実証実験の範囲



下記2つの実証実験を実施

(A) GビズIDを活用した、組織情報証明書の発行

- 当社 アプリ用SDKを活用し、GビズID基盤から取得した情報に基づく、組織情報用証明書の発行を想定し、当該処理が可能かどうかを検証
- 当該検証にあたり、『**デモ用電子証明書 発行システム**』を開発

(B) 組織情報証明書による業務効率化

- 発行した組織情報用証明書を有効活用するため、ユーザ側でPINを入力し、
 - i) 組織情報の抽出、ii) 指定した値が含まれているかの可否、の2点が可能か検証
- 当該検証にあたり、『**デモ用電子証明書 検証システム**』を開発

● 実証実験の結果

- G BizID基盤を活用することで、当社の現行システム内でも、『利便性とセキュリティを両立した』個人向け組織証明書を発行可能
- また、身元確認証明書と組み合わせることで、『身元が判明している人が、どの組織に所属しているのか』を確実に検証可能
- 今回の実証実験を通じて、金融・携帯サービスにおける、『法人の取引時確認プロセス』の一部を効率化できる可能性があると判断

● 今後の課題

- 今回の実証実験で活用したシステムを、より利便性高い形アップデートする必要あり
- G BizIDに登録されている情報と、実際の組織情報には差分が発生する可能性があるしたがって、よりセキュリティレベルを向上させるためには、『G BizIDから取得した情報の適正性を担保する仕組み』又はルールが必要と思慮